

京都メカニズムの個別プロジェクトの承認結果等について

平成 16 年 5 月 18 日

京都メカニズム活用連絡会

1. 個別プロジェクトの承認結果について

| 承認年月日 | 種類 | 実施国 | プロジェクト概要（排出削減量予測） |
|----------|-----|------|---|
| 15年12月3日 | CDM | ベトナム | 油田随伴ガスの回収・有効利用 （年間約68万トンのCO ₂ ） |

（前回の地球温暖化対策推進本部（15年8月29日）以降に承認したもの）

※これにより、日本政府承認案件は合計6件となる。

（注）京都メカニズムの種類

①共同実施（J I）

先進国間の共同プロジェクトで生じた削減量を当事国間でやり取りするもの。

②クリーン開発メカニズム（CDM）

先進国と途上国の共同プロジェクトで生じた削減量を先進国が獲得するもの。

③排出量取引

先進国間で排出枠をやり取りするもの。

2. 国別登録簿について

- 本部決定において、経済産業省及び環境省が共同して整備することとしている国別登録簿については、クレジット移転機能等の基幹機能の操作性向上のほか、電子申請システムとの接続について開発、実証実験を行った。今年度も、関連する国際的合意等を踏まえ、引き続き作業を進めていく。
- また、国別登録簿を利用する際の手続等を定める「国別登録簿利用規程（案）」について、パブリック・コメント手続に付すとともにその結果を公表したところであり、今後、同規程を告示により定める。

参考

これまで日本政府承認されたCDM/JIプロジェクト

| | 承認年月日 | CDM /JI | 申請者 | 実施国 | プロジェクト名 | プロジェクトの概要 | 排出削減量予測 | 申請受理省庁 | 支援担当省庁 |
|---|-------------|------------|-----------------------------|--------|------------------------------------|--|---------------|--------|----------------|
| 1 | 平成14年12月12日 | JI | 新エネルギー・産業技術 総合開発機構(NEDO) | カザフスタン | 熱電併給所省エネルギーモ デル事業 | 熱電併給所において日本で導入 実績のある高効率のガスタービン 及び排熱回収ボイラによるコジェ ネ設備を導入 | 年間約6万2千トンのCO2 | 経済産業省 | 経済産業省 |
| 2 | 平成14年12月12日 | CDM | 豊田通商株式会社 | ブラジル | V&M Tubes do Brazil 燃料 転換プロジェクト | バイオマスを利用した鉄鋼生産 | 年間約113万トンのCO2 | 経済産業省 | 経済産業省 |
| 3 | 平成15年5月22日 | CDM | 電源開発株式会社 | タイ | タイ国ヤラにおけるゴム木廃 材発電計画 | ゴム木廃材を利用したバイオマス 発電 | 年間約6万トンのCO2 | 経済産業省 | 経済産業省 農林水産省 |
| 4 | 平成15年7月15日 | CDM | イネオス ケミカル株式 会社 | 韓国 | 韓国ウルサン市におけるHF C類の破壊事業 | HCFC22の副生産物としてのHF C23の破壊 | 年間約140万トンのCO2 | 経済産業省 | 経済産業省 環境省 |
| 5 | 平成15年7月29日 | CDM | 関西電力株式会社 (e7基金を代表して申請) | ブータン王国 | e7ブータン小規模水力発電 CDMプロジェクト | 未電化の村に小規模水力発電所 を建設 | 年間約500トンのCO2 | 経済産業省 | 経済産業省 |
| 6 | 平成15年12月3日 | CDM | 日本ベトナム石油株式会 社 | ベトナム | ランドン油田随伴ガス回収・ 有効利用プロジェクト | ランドン油田において当初焼却処 分(フレア)していた随伴ガスを回 収し、パイプラインを建設して陸上 に供給 | 年間約68万トンのCO2 | 経済産業省 | 経済産業省 |